

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

深まる「兵庫えんがわナビ」の話・和・輪 ～悩みと展望～



第1～5回 こんな意見が出ました

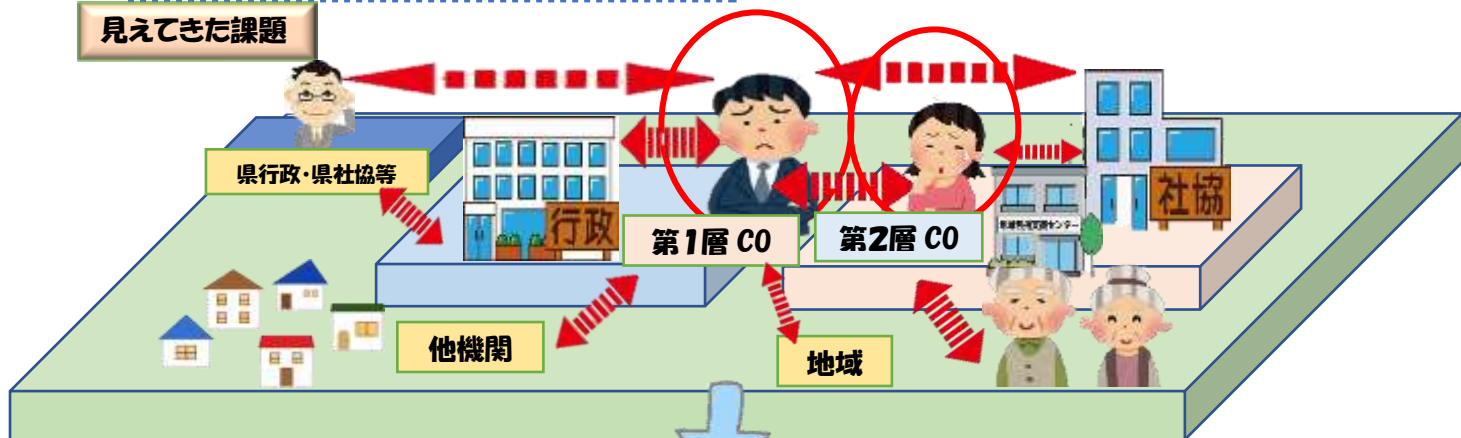
第1層生活支援COの意見

- 第1層COの役割・活動が不明確。
- 第1層協議体の立ち上げ、議題、成果の出し方、見せ方等に迷う。
- 背景（組織・経験等）の違う第2層COとの調整、協働が難しい。
- 市町で1名配置。相談等ができず孤立する時がある。

第2層生活支援COの意見

- 協議体の立ち上げ方に悩むことがある。
- これまでかかわっていない地域への入り方、住民への広報の仕方がわからないことがある。
- サービス、住民活動に結びつけるには。
- 行政に何をどう報告すればよいのか？

見えてきた課題



第1層COの課題整理

- ①個別の課題
 - これまでの経験、管理、指導経験等の違い。
 - 所属背景の違い（行政・地域包括・社協等）。
 - 相談できる人、研修の機会等が少ない。
- ②組織の課題
 - 組織のなかで、制度の理解の差、サポート体制の差がある。
 - 他部門（組織内、行政・企業等）との連携ができにくい。
 - 組織としての取組み不足（地域福祉推進計画等の位置づけ・庁内連携等）
- ③制度上の課題
 - 第1層生活支援COの役割が明確でない。
 - 行政から求められるものと第2層が地域から築き上げるものの乖離

第2層COの課題整理

- ①「読み取り」の課題（情報収集・ニーズ把握）
 - 地域福祉、対人援助の基礎等の有無。
 - 地域に生活支援COの役割等を明確にする。
 - 経験等により地域へのかかわり等の学びが必要
- ②「編集」の課題（協議の場づくり・見せる化）
 - 協議体・話し合いの場、ニーズのとらえ方。
 - 地域の特性を理解した協働が必要。
 - 第1層生活支援CO等との連携。
- ③「組み立て」の課題（活動・事業等）
 - 行政等からの期待と地域活動の軋轢。
 - 他機関・企業等との協働。
 - 専門職主導か住民主体の活動か。
 - 組織・行政等のサポート体制。

【発行元】（令和2年12月22日発行）
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当：山下・永坂)

地域包括ケアシステム開始から12年 連携はなぜできない？実践セミナー開催

令和2年10月19日、生活支援体制整備事業実践セミナーを開催しました。コロナ感染拡大の様子を見ながらの集合研修でした。県内から、52名の参加で講義と実践報告、演習をフルに活用しながら久しぶりの対面研修に活発な意見交換がありました。

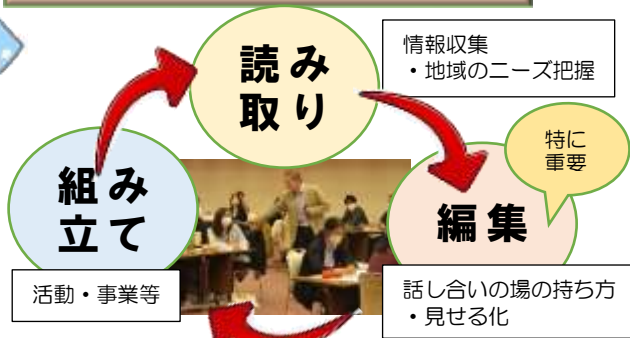


講演「連携をめぐる困りごとを超えるために」

兵庫県立大学 環境人間学部
竹端 寛先生

「連携はなぜできないの？」の問いから始まった講演。『地域福祉に正解、正しい答えはない。成る解答（成解）はある。つまり、人の生きがいだとか人が支えることのプロセスに正解はない。自分（組織）の「立場性」は「常識」であるが、他者・他組織にとっては当たり前でないことを自覚していますか？』と課題提起し、「自分の価値前提で相手に向き合っていないか」「決定のための対話と違いを知るための対話」を踏まえる重要性を強調されました。

演習：竹端先生とのやり取りで深める ～生活支援COが苦勞している三つ～



実践報告：「生活支援コーディネーターの取組から」

読み取り

○小さな集まり、デイサービスの利用者等から入っていた。
○印象に残るように目立つ服を着て身近な住民からニーズを拾い、大きな団体に提案する。

読み取り

○日ごろからサロン等の運営者から「相談日を決めても来る人が少ない。」と相談があり、住民と一緒に悩むことで協働関係ができた。何事も専門職だけで決めることや、計画はしない。

組み立て

○デイが持っていた移動販売車とスーパーとJAと連携。
○移動鮮魚店を20か所に。
○「地域の購買+居場所」の確立。等



兵庫県社会福祉協議会
第2層生活支援CO
猪尾 公子氏

編集

○スーパーがなくなり買い物難民が増えた。住民が購買を衰退させまいと立ち上がり、行政も入って部会を立ち上げる。

組み立て

○住民との実践と行政との連携で「情報の見える化」に着目。
○住民にわかりやすいようCoを「暮らしのパートナー」と呼称。



宝塚市社会福祉協議会
生活支援Co
早瀬 瑛氏
地区担当
大関 可奈子氏

編集

○対象を決めず、何が困っているか、いろいろな見守りをされていることを校区ネットワーク会議で確認し、話し合う。

演習：「これから私たちが取り組むことを考える」

参加者の疑問に答える！

Q:住民が「めんどくさい」というのだけれど。

○「めんどくさい」という人に対して→わかってもらおうではなく、身近な事例の紹介するなどして理解を促す。(猪尾氏)

Q:地域の場作りは？

○訪問前に仮説を立てて質問を考える。(猪尾氏)
○意図的に何かしてもらえそうな人を探す。住民が必要なことは時間をかける。住民がもう一回やりたいたいと言えることをめざす。(大関氏)

Q:情報の整理のポイントは？

○行政への報告書：事業報告ではなく、「サロンに要支援者が何%だからサロンが必要」といった数値化を行う。
○見える化等は組織の中に得意な人を見つける。(早瀬氏)

Q:先進事例をどのように紹介する？

○住民のニーズの中でプラスワンのことを紹介する(例：若い人とつながりたい→ナイトサロンの紹介)。(早瀬氏)

竹端先生から

立場の連携を先にすると立場が邪魔する。思いをシェアすると仲間になる。そこで初めて動ける。違いを楽しむことができれば面白い。この仕事は型にはめるととことんつまらなくなる。連携と思うとしんどい。「違いを教えてください」。「あなたと分かり合えないことを知りたい」と始めてみませんか。



【編集後記】

生活支援体制整備事業の研修も管理者会議、基礎セミナー、実践セミナーと終了しました。えんがわナビも5回開催させていただき、県内の第1層CO、第2層COの課題も見えてきました。さらに、10月からは、市町訪問を始めています。そこで感じることは、困りごとや課題だけでなく、生活支援Coの活動の「見える化」、そして「魅せる化」だと思います。これからもみなさまの宝物を探しに行かせていただきます。